

彦根市埋蔵文化財調査報告 第10集

# 彦根市内遺跡分布調査報告書

昭和 61 年 3 月

彦根市教育委員会

## 序

「城と湖の街」彦根市は、滋賀県のほぼ中央部琵琶湖の東岸に位置し、日本の中で西国と東国・北国とを結ぶ交通の要路になっておりました。交通は、人と物が動くだけではない事は言うまでもなく、人々が生み出した無形の文化も運ばれました。この様な地理的・歴史的な環境の中で本市は育まれてまいりました。

彦根城の築城は本市の歴史においては大きなエポックではありますが、近世の日本の歴史においては本市の佐和山に所在する佐和山城跡がターニングポイントとして位置付けられる遺跡であります。この様に本市においては豊かな歴史があった事が多くの遺跡が存在する事から窺い知ることが出来ると思います。遺跡は歴史の中で生み育てられた人々の生きていた証しであり、私達国民一人ひとりが共有すべきものであるとともに、未来に向って引き継いで行くべきものであります。

本市教育委員会では、文化財保護のための基礎資料とするため、文化庁および県の補助を得て昭和56年度より市内遺跡分布調査事業を実施してまいりました。ここに、その成果をおさめた報告書を刊行することになりましたが、遺跡は埋蔵文化財とも言われる性格から、今後とも書き直されて行くべきものであります。本書は昭和60年度現在の成果でありますが、この成果を各分野で活用していただき、文化財保護の一助となるよう期待いたしております。

なお、最後になりましたが、本調査に格別のご尽力とご協力を賜りました多くの方々に深く謝意を表します。

昭和61年3月

彦根市教育委員会

教育長 河原保男

## 例 言

1. 本書は、昭和56年度から五ヶ年の継続事業として実施した彦根市内遺跡分布調査事業の調査報告書である。
2. 本事業は、文化庁および滋賀県の補助事業として実施した。
3. 本事業の実施にあたっては、滋賀県教育委員会文化財保護課のご指導を得るとともに（財）滋賀県文化財保護協会のご協力を得た。また、多くの方々のご理解とご協力を得たことを記して感謝したい。
4. 本書に使用した地図は彦根市発行の2万5千分の1のものを使用した。
5. 遺跡の範囲は今後の調査の進展によって変わりうるべきものである。
6. 本調査は彦根市教育委員会が調査主体となって実施し、社会教育課技師本田修平が担当した。

## 目 次

1. はじめに .....	4
2. 市内遺跡の立地 .....	5
3. 市内遺跡の概観 .....	6
4. まとめ .....	9

## 図 版 目 次

遺跡一覧表 .....	10 ~ 16
彦根市内遺跡分布調査地図割図 .....	17
遺跡分布図 1 ~ 14 .....	18 ~ 31
写真図版 1 ~ 11 .....	32 ~ 42

# 1 はじめに

彦根市は琵琶湖の東岸のほぼ中央部の湖岸線に沿って所在し、旧神崎郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡と境を接し、対岸には比良山系を望み、東方は鈴鹿山系の靈仙山を経て三重県へと続く。旧中山道は犬上郡を経て彦根市域をかすめる様に北上し市域の東側を通り、摺針峠から坂田郡に入り伊吹山の東裾を抜けて岐阜県へと通じている。北国街道は彦根市の東端鳥居本町から中山道と分かれ、坂田郡・東浅井郡・伊香郡から福井県へと続く。上記した旧中山道・北国街道に沿ったルートは、現在の交通においても重要な位置を占め、国道8号・21号線、名神高速道路、北陸縦貫道路、東海道本線、東海道新幹線が通っている。

地理的に湖東平野を見れば、滋賀県と三重県を画する鈴鹿山系を源とする河川が形成した扇状地・沖積平野・デルタの複合した地形から成っている。彦根市域は、この湖東平野の北端に位置し、市域の東端では鈴鹿山系の北端にあたっている。市域を貫流する主要な河川は南から愛知川・宇曽川・犬上川・芹川の4水系があり、内湖・琵琶湖を埋めながら沖積平野を形成し現在の地形を作った。また、湖上には多景島が所在しているが、市内の平野部に独立丘として存在している荒神山・雨壺山・金龜山等もある時期には湖中の島として存在していたものが、河川の激しい沖積作用で埋め残されたものと考えられている。

本市の南端を画する愛知川は最もデルタを発達させているが、それだけ荒れ川であったと考えられ、近世以前にはその流れを変え北流して荒神山の南方で琵琶湖に注いでいたものが、彦根市服部町で西流し新海町地先で琵琶湖に注ぎ発達したデルタを形成している。宇曽川は谷を抜けると愛知川に添うように流れ、愛知川が西流した後も北流を続け荒神山を目指す。荒神山周辺には現在でも野田沼・曾根沼を残しているが、宇曽川が湖岸にデルタを発達させていない所から見て、内湖を通じて琵琶湖につながっていた事が考えられる。犬上川は市内第2位の水量を持ち、山地を抜けるとほぼ北流して市内の八坂町と大藪町の間に小さなデルタを形成しながら琵琶湖に流れ込んでいる。以前の犬上川は、現在の彦根市高宮町から安食西町までの広範な扇状地を形成していたらしく、その前面の旧デルタの上に古くからの集落を立地させている。芹川は扇状地を抜けると北流し、雨壺山の北側で流れを西に転じて真直に西流して琵琶湖へと注ぐ。この川は彦根城築城の時に城下の最初の防衛線として付け変えられたもので、それ以前は北流して松原内湖に注いでいた事が古絵図等で知られている。この他、市内には鳥居本町の所在

する谷を形成している矢倉川や平田川・清崎川・文録川等小河川があるが、矢倉川をのぞき上記した4河川の分流等のなごりと考えられる。

彦根市域は前記して来た様に東側には鈴鹿山系北端にあたる山塊を含むが、その大部分は扇状地および沖積地で形成され、沖積作用によって陸地にとり残されて点在する小山丘および、湖岸周辺には多くの内湖が形成されていた。また、河川は市内に多くの小河川が旧分流等のなごりとして存在する事から、現在の河川の様に流路が一定していたとは考えられず、網状流を成し沖積地のいたる所で低湿地を形成していたと考えられる。

彦根市域の自然地理的な立地は上記した様になるとを考えられるが、古代からの主要な街道である中山道は彦根市内においては地形的に安定した地域と考えられる犬上川等が形成した扇状地先端部を通り、市域東北端に至り矢倉川の谷を抜けて東国へと通じている。この様な自然地理的な条件のもとに彦根市はその歴史を積み上げて來た。

## 2 市内遺跡の立地

彦根市域の遺跡の立地で特筆すべきものは多景島遺跡であろう。この遺跡は琵琶湖総合開発の補償工事として行なわれた多景島船着場の改修工事中に不時発見されたもので、水深4m前後の湖底に弥生時代から近世に至る遺物が沈んでいたとの事である。また、調査時には焼け跡等も発見されている。現在の多景島には見塔寺が所在しているが、この寺院は江戸時代に創建されたもので、それ以前の記録は見あたらない。県下で実施された琵琶湖周辺の遺跡では現在の水面下約4mの所で弥生時代の生活層が検出されており、多景島の湖底遺跡はある時代には水面上に出ていた可能性が考えられる。現在の多景島は島頂部に寺院の建物が建っており、あとはすぐに湖中に落ち込む地形であるが、水面が4m下がるとかなりの面積が増え、若干の平地も顔を見せる。ただし、琵琶湖は中世に水位が上がったと言われ湖底に沈んだ中世集落の伝説が語り継がれているが、この遺跡に弥生時代から近世までの遺物がなぜ沈んでいるのかは今のところ不明と言わざるを得ない。

彦根市内の遺跡で沖積地に立地するものはその大部分が河川、低湿地、内湖周辺の微高地に所在するものと考えられる。この例は稻枝地域の遺跡に顕著であり、旧愛知川の自然堤防上に湖岸に向って1列に遺跡が並んでいる。また、犬上川の扇状地は前記した

様に古代からの街道が通ることから古くから開発の進んだ地域の1つと考えられ、葛籠北遺跡等で確認できた様に後期古墳群が埋没している地点もある。

市内における中世の様相は、集落跡の多くのものが現在の集落と重なる事が考えられる。また、この時代の政治集団である中世領主は、大領主までに成長しなかった事から古くからの集落には城館があったと言う伝承が残る。

### 3 市内遺跡の概観

彦根市内における以前に確認されていた遺跡数は70数遺跡であり十分な把握がなされていなかったとともに、発掘調査例も少なかった。この事は、開発のための事前の確認調査でその所在が確認できた遺跡が多くある事からも窺える。また、この事は市内の遺跡の性格やその範囲等が現時点では十分に把握できていない事を示しており、今後徐々にではあっても埋蔵文化財の保護行政を進めていく上で、分布調査が必要である事を教えている。

以下、現時点までに調査等で知られた各時代ごとの概要を記したい。

#### (1) 縄文時代

滋賀県下においては近年縄文時代後期から晩期にかけての遺跡の発掘調査が多数行なわれる様になって来た。本市域においても「彦根市史」に記載のある矢倉川遺跡の他に、福満遺跡、松原内湖遺跡などが知られ調査されている。このうち、松原内湖遺跡は現在（財）滋賀県文化財保護協会の手で発掘調査が実施されており、今後の調査結果を待たなければならない。福満遺跡は現在までに3次にわたる発掘調査を実施しており縄文時代後期および晩期の良好な遺物が多量に出土している。この遺跡の縄文時代の遺物の包含層は、いずれも旧河道もしくは低湿地に堆積した2次的な包含層であり、隣接する微高地において遺構は確認できなかった。第3次調査で出土した縄文時代後期の土器（写真図版1）は、東大阪市の縄手遺跡出土のものと非常によく類似するものがあり、いわゆる北白川上層式と言われる範疇に属するものを中心としている。この他、関東の堀之内式に類似する土器も出土している。第1・2次調査では縄

文時代晚期の遺物が多量に出土している。出土土器（写真図版－2）は、いわゆる刻目凸帯文のものを中心とするもので、その型式は滋賀里V式・近畿地方中央部で言う船橋式の範疇に属するものと考えられる。彦根市内で縄文時代の遺物を出土したと言われる遺跡は他に数ヶ所あるが、まだ調査の手はよんでおらず、内容は不明である。また、現在後期からの遺物の出土が知られている松原内湖遺跡の山を越えた北側には早期からの遺物を出土し、とりわけ前期の人骨が確認された米原町の磯山城遺跡が存在し、この周辺の地域はこの時代の遺跡が集中する地域であると考えられる。

## （2）弥生時代

本市においての弥生時代前期の様相はまだ明確にはなっていない。福満遺跡は前述した様に縄文時代晚期後半の遺物を多量に出土した遺跡であるが、弥生時代前期の遺物は確認できていない。この遺跡の現在までの調査結果では、弥生時代に入ると一旦遺跡が廃絶し、弥生時代後期になって再度人々の生活が始まったと考えられる。この前期の様相をわずかに伝えているのが矢倉川遺跡で「彦根市史」によれば地元の人が前期の遺物を採集しているとの事であり、現在（財）滋賀県文化財保護協会が調査を進めている松原内湖遺跡で縄文時代晚期から弥生時代前期にかけての接点が明らかになる可能性があると考えられる。また、荒神山東側の妙楽寺遺跡では、宇曾川の河川改修工事に先立ち発掘調査が実施され前期以降の土器が出土したとの事であり、その詳細は県教育委員会から報告されると思う。

弥生時代中期以降になるとその調査例は増え、人々の歴史的活動は明確になって来る。すなわち、県教育委員会が調査を実施した川瀬馬場遺跡ではピットを中心とした遺構面が確認されるとともに中期以降の遺物が出土した。後期に至るとその出土例は一層増加し、稻部遺跡・福満遺跡等から出土している。肥田西遺跡出土の土器（写真図版－3）は、巾50cmほどの溝から出土した一括資料で中期後半のものと考えている。また、堀南遺跡では弥生時代後期の方形周溝墓（写真図版－4）が3基検出されている。ただし、この時代の明確な住居跡はまだ確認できておらず、今後の調査を待たなければならない。

## （3）古墳時代

古墳時代の遺跡は、前述した弥生時代後期の遺物を出土した遺跡とほぼかさなり、その時間的な連続性が窺がわれ、遺跡が立地する地形が安定化に向っていたと思われ

る。古墳時代の集落跡として明確な遺跡は竹ヶ鼻廃寺を上げる事ができ、住居跡内から古式土師器が出土しており、前期からの集落が存在した事が考えられる。また、後期の集落跡は横地遺跡・福満遺跡等で住居跡を確認しているが、いずれも部分的な調査であり集落全体の様相を把握するまでには至っていない。これ等の遺跡で検出した竪穴式住居跡は、住居跡内部の周溝は確認できたものがあるが炉跡等の内部施設は不明であった。しかし、堀南遺跡で検出した後期の住居跡は東側に煙道を持つ馬蹄形の造り付けのかまどを持つ竪穴式住居跡（写真図版－5）1棟を確認している。

後期群集墳は從来彦根市内においては荒神山古墳群の現在確認できている25基以外、東山や正法寺等で数基知られている他はなく、平地においてもあまり確認できていないものであった。しかし、犬上川中流部南岸の横地遺跡で小円墳の封土が地山まで削平されて周溝だけを残す遺構が確認され、主体部は検出できなかったものの周溝内から6世紀後半以降の須恵器が出土している。この様な平地における存在様式を示す後期群集墳は、葛籠北遺跡でも確認している。この遺跡では1基だけではあったが主体部を確認している。すなわち、葛籠北遺跡1号墳は横地遺跡の小円墳同様封土が削平され周溝だけを残すものであったが、その中央部で土塙の掘方が検出されるとともに木棺に塗ってあったと思われる朱が確認でき須恵器・鉄刀等を副葬した木棺直葬墳（写真図版－6）であり、副葬品から6世紀中ばに造営されたものであると考えられる。この他、総数で8基の古墳を確認するとともに、同時期のものと考えられる土塙墓6基（写真図版－7）も検出しており、後期古墳の平地における存在様式の1つのパターンを示すものとして注目される遺跡である。これ等の遺跡はいずれも犬上川水系のものであるが、今後調査の進展によって他の地域でも検出できる可能性が高いと考える。

この他、この時代の遺物として特筆すべき遺物は福満遺跡で出土した小持勾玉（彦根市埋蔵文化財調査報告第5集福満遺跡）を上げる事ができる。

#### (4) 歴史時代

彦根市域における仏教文化の根付いた表われとして上げられるのが、犬上川水系に位置している竹ヶ鼻廃寺・高宮廃寺および愛知川水系に成立したと考えられる屋中寺廃寺・普光寺廃寺の4遺跡である。この4遺跡とともに周辺に瓦の散布が認められ、屋中寺廃寺では柱根・普光寺廃寺では塔の心礎と言われるものが出土地してあるが、遺跡の詳細については不明である。竹ヶ鼻廃寺では寺域の周辺で発掘調査を実施しており軒平瓦等の古瓦（写真図版－8）の出土を見ている。この他、奈良時代前期の瓦が発

見された遺跡は正法寺遺跡で、山裾に瓦や炭火物・焼土等も認められた事から窯跡と考えられる。

この時代の集落跡は、そのほとんどが掘立柱建物跡を中心とする遺構で、出土遺物の量が少なく明確な時期決定は困難であるが、葛籠北遺跡や竹ヶ鼻廃寺で検出している掘立柱建物跡（写真図版-9）の大半はこの時代のものであると考えられる。

平安時代から中世前期までの遺跡は、現在までの調査では極少量の遺物しか出土しておらず、遺構も明確なものは確認できていない。この時代の集落跡の多くのものは現在の集落とその立地を同じくしており重複していると考えられ、まだこの時代の様相は把握できていない。

中世後期には、文献や伝承等から多数の城が存在している事が知られている。高宮城跡においては小学校と幼稚園の改築時に調査を実施し、城館の堀跡（写真図版-10）を確認している。埋土には16世紀を中心とする遺物が入っていた。また、この時代の集落跡としては荒神山東裾の古屋敷遺跡を発掘調査しており、屋敷割の石組溝（写真図版-11）等を検出している。この遺跡は、16世紀後半を示す遺物が極端に少なくなる事から、この時代には廃絶したものと考えられる。

中世城館跡は、現在滋賀県教育委員会の手で県下の中世城館跡の所在確認調査を行なっており、彦根市域における城館跡の所在が明確になって来るものと考えられる。

#### 4 ま と め

以上中世までの彦根市内における遺跡の概観を記して来たのであるが、近世に至る著名な遺跡としては石田三成の居城として有名な佐和山城跡や特別史跡彦根城跡があり、また製産遺跡としては一時彦根藩の御用窯として名品を焼成したと言われる湖東焼窯跡が存在し、今後の調査課題になって来るものと考えられる。

この様に、彦根市内における遺跡の様相はまだまだ十分に把握しているとは言えなく。今後より一層調査活動および文化財の保護行政を進めていく必要があると考えられる。

No	遺跡名	所在地	立地	時代	内容	備考
1	梅塚遺跡	彦根市宮田町大谷	山麓		散布地	
2	物生山西遺跡	彦根市宮田町大畑ヶ	山麓		散布地	
3	宮田遺跡	彦根市宮田町	平地	古墳～平安	散布地	
4	矢倉川遺跡	彦根市松原町	河川	縄文～平安	散布地	
5	松原内湖網代口遺跡	彦根市松原町	平地	古墳～平安	散布地	
6	松原内湖小屋遺跡	彦根市松原町	平地	古墳～平安	散布地	
7	松原内湖遺跡	彦根市松原町	平地	縄文～中世	集落等	
8	六反田遺跡	彦根市鳥居本町	平地	古墳～平安	散布地	
9	石塚遺跡	彦根市鳥居本町	平地	古墳・平安	円墳1基、経塚	
10	四ツ目遺跡	彦根市鳥居本町	平地	古墳～平安	散布地	
11	佐和山城跡	彦根市佐和山町	山頂・平地	室町～桃山	本丸、出丸、土墨残存	
12	古沢古窯跡	彦根市古沢町	山麓	江戸	湖東焼窯跡	
13	泉山寺遺跡	彦根市鳥居本町	平地		飛鳥時代慧明創建伝承	
14	円壇堂遺跡	彦根市武奈町	山頂		薬光寺、堂立、高僧谷の地名あり	
15	本正寺遺跡	彦根市鳥居本町	山頂			
16	円殿前遺跡	彦根市鳥居本町	平地	古墳～中世	散布地	
17	莊巖寺遺跡	彦根市莊巖寺町	山腹		神護景雲3年創建という、霊山寺7院の1つ	
18	仏生寺遺跡	彦根市仏生寺町	山腹		"	
19	仏生寺城跡	彦根市仏生寺町	山腹	中世		
20	仏生寺川中遺跡	彦根市仏生寺町	河川敷	縄文	散布地	
21	姫袋遺跡	彦根市古沢町	山腹	古墳時代	円墳1基 横穴式石室	

22	小 野 城 跡	彦根市小野町	丘 陵	中世	散布地、城館跡か
23	特別史跡彦根城跡	彦根市金龜町	丘陵・平地	江戸時代	
24	東 山 遺 蹤	彦根市古沢町	山 腹	古墳時代	円墳1基 横穴式石室
25	地 蔵 堂 遺 蹤	彦根市笛尾町	山 腹		字名に地蔵谷の地名あり
26	少 林 寺 遺 蹤	彦根市笛尾町	山 腹		
27	牛 ノ 海 遺 蹤	彦根市中藪町	平 地	縄文～中世	散布地
28	野 神 遺 蹤	彦根市大藪町	平 地	古墳～平安	散布地
29	大 野 遺 蹤	彦根市大藪町	平 地	古墳～中世	散布地
30	茶 園 遺 蹤	彦根市大藪町	平 地	平安～中世	散布地
31	觀 音 寺 遺 蹤	彦根市芹川町	山 頂	中世	散布地
32	天 王 山 北 遺 蹤	彦根市芹川町	山 頂	古墳～平安	散布地
33	山 畑 遺 蹤	彦根市和田町	山 頂	古墳時代	散布地(古墳か)
34	天 王 山 遺 蹤	彦根市芹川町	山 腹	中世	散布地(古墳か)
35	天 王 山 南 遺 蹤	彦根市芹川町	山 腹	中世	散布地
36	雨 壇 山 遺 蹤	彦根市山ノ脇町	山 頂	古墳時代	散布地(古墳か)
37	雨 壇 山 東 遺 蹤	彦根市山ノ脇町	山 麓	中世	散布地(古墳か)
38	下 松 田 遺 蹤	彦根市中藪町	平 地	古墳時代	散布地
39	七 講 田 遺 蹤	彦根市開出今町	平 地	古墳～平安	散布地
40	中 久 保 遺 蹤	彦根市野瀬町	平 地	古墳～平安	散布地
41	下 野々上 遺 蹤	彦根市西今町	平 地	古墳時代	散布地
42	一 ツ ヤ 夷 遺 蹤	彦根市平田町	平 地	古墳～中世	散布地
43	木 戸 口 遺 蹤	彦根市平田町	平 地	縄文～中世	散布地

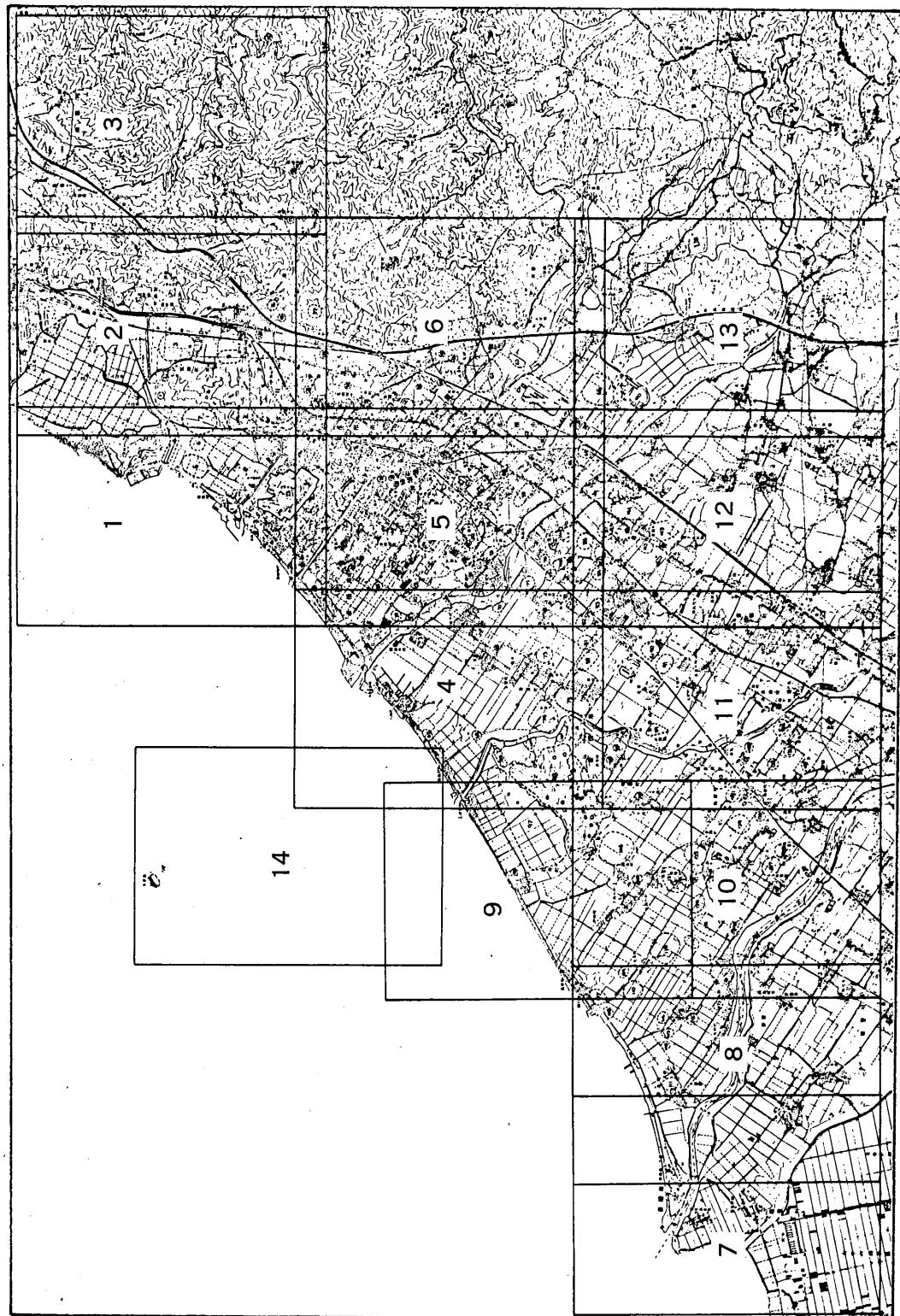
44	山之脇遺跡	彦根市山之脇町	平地	古墳～中世	散布地
45	下沢遺跡	彦根市西沼波町	平地	古墳時代	散布地
46	地蔵遺跡	彦根市地蔵町	平地	古墳時代	古墳1基
47	五反田遺跡	彦根市正法寺町	平地	古墳時代	散布地
48	鳥籠山遺跡	彦根市正法寺町	山麓	奈良時代	瓦窯跡
49	正法寺遺跡	彦根市正法寺町	平地	古墳時代	古墳1基
50	正法寺古墳群	彦根市正法寺町	丘陵	古墳時代	円墳6基
51	須川遺跡	彦根市野瀬町	平地	古墳～中世	散布地
52	福満遺跡	彦根市西今町	平地	縄文～中世	集落跡
53	西今遺跡	彦根市西今町	平地	古墳～中世	散布地
54	品井戸遺跡	彦根市小泉町	平地	縄文～中世	集落跡
55	椿塚遺跡	彦根市竹ヶ鼻町	平地	古墳時代	古墳か?
56	竹ヶ鼻廢寺	彦根市竹ヶ鼻町	平地	奈良時代	寺院跡、集落跡
57	道ノ下遺跡	彦根市東沼波町	平地	古墳～中世	散布地
58	丁田遺跡	彦根市竹ヶ鼻町	平地	古墳～中世	散布地
59	東沼波遺跡	彦根市東沼波町	平地	古墳時代	古墳1基
60	遊行塚遺跡	彦根市高宮町	平地	奈良時代	高宮廃寺か?
61	竹ヶ下遺跡	彦根市野田山町	平地	古墳～平安	散布地
62	藤丸遺跡	彦根市大堀町	平地	古墳～中世	散布地
63	八反切遺跡	彦根市野田山町	平地	古墳～中世	散布地
64	高宮城跡	彦根市高宮町	平地	古墳～中世	城館跡
65	力ツトリ遺跡	彦根市高宮町	平地	古墳～平安	散布地

66	塚 本 遺 跡	彦根市高宮町	平 地	古墳～中世	散布地
67	針 兼 遺 跡	彦根市須越町	平 地	古墳～平安	散布地
68	野 田 沼 遺 跡	彦根市須越町	平 地	古墳～平安	散布地
69	甘 呂 遺 跡	彦根市甘呂町	平 地		甘露寺跡伝承
70	上 汚 尻 遺 跡	彦根市野瀬町	平 地	古墳～中世	散布地
71	門 田 遺 跡	彦根市堀町	平 地	古墳～奈良	散布地
72	蓮 台 寺 遺 跡	彦根市蓮台寺町	平 地	中世	
73	寺 村 遺 跡	彦根市日夏町	平 地	古墳～平安	散布地
74	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市日夏町	平 地	弥生～平安	集落跡
75	蛭 目 遺 跡	彦根市日夏町・清崎町	平 地	古墳～平安	散布地
76	横 地 遺 跡	彦根市堀町	平 地	弥生～奈良	集落跡
77	石 原 遺 跡	彦根市辻堂町	平 地	古墳～平安	散布地
78	辻 ノ 東 遺 跡	彦根市辻堂町	平 地	古墳～奈良	散布地
79	神 ノ 木 遺 跡	彦根市金剛寺町	平 地	古墳時代	古墳か
80	川 瀬 馬 場 遺 跡	彦根市川瀬馬場町	平 地	弥生～平安	集落跡
81	鶴 ケ 池 遺 跡	彦根市川瀬馬場町	平 地	古墳～平安	散布地
82	杉 田 遺 跡	彦根市川瀬馬場町	平 地	古墳～平安	散布地
83	西 海 道 遺 跡	彦根市川瀬馬場町	平 地	古墳～平安	散布地
84	天 田 遺 跡	彦根市極楽寺町	平 地	古墳～平安	散布地
85	極 楽 寺 遺 跡	彦根市極楽寺町	平 地	古墳～奈良	集落跡
86	段 ノ 東 遺 跡	彦根市森堂町	平 地	古墳～平安	散布地
87	葛 篦 北 遺 跡	彦根市西葛籠町	平 地	古墳～中世	古墳群、集落跡

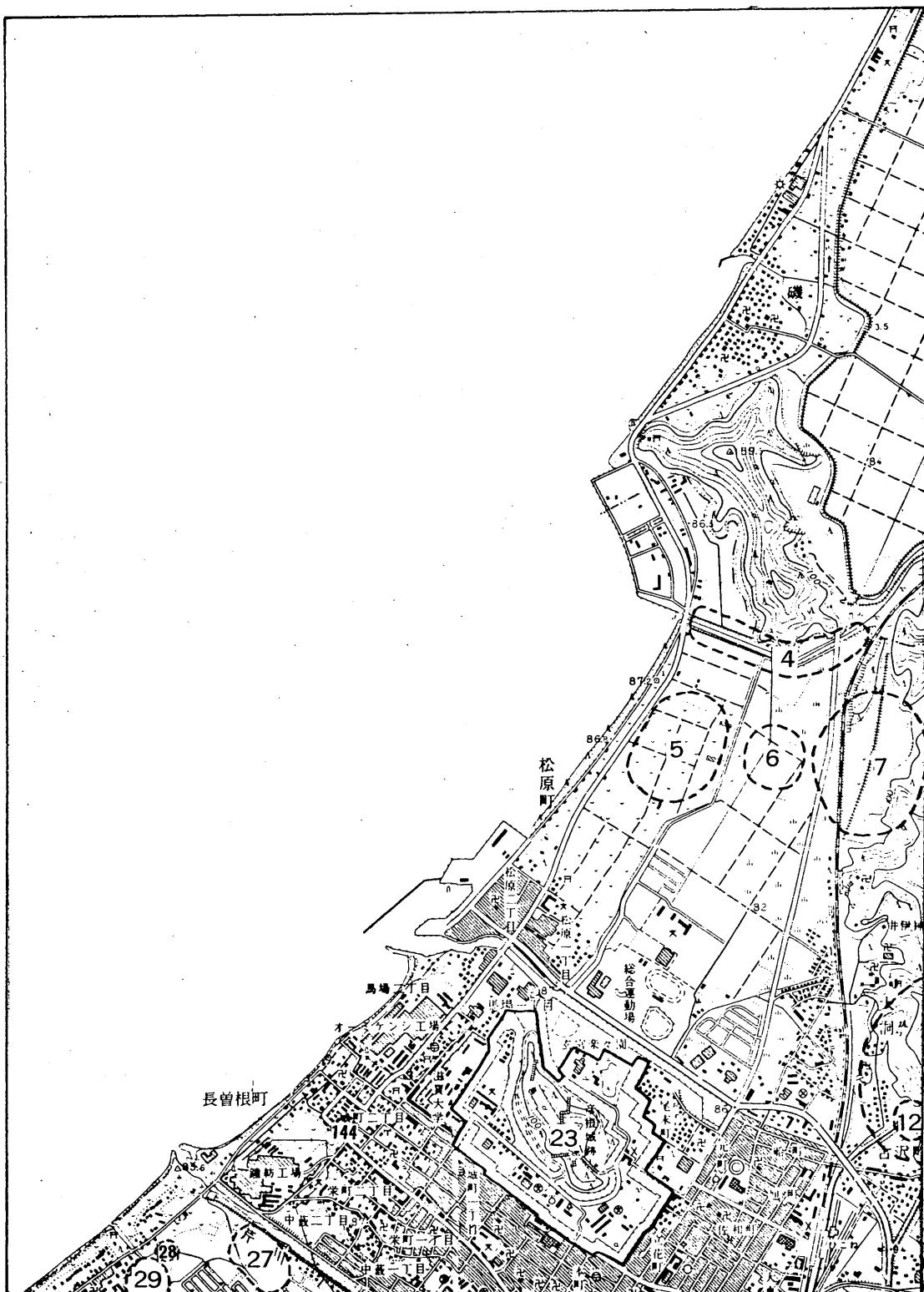
88	西 葛 篠 遺 跡	彦根市西葛籠町	平 地	古墳時代	円墳 1基
89	鍬 取 遺 跡	彦根市賀田山町	平 地	古墳～平安	散布地
90	十 八 遺 跡	彦根市南川瀬町	平 地	古墳～平安	散布地
91	横 田 遺 跡	彦根市榆町	平 地	古墳～平安	散布地
92	南 河 濱 遺 跡	彦根市南川瀬町	平 地	古墳時代	円墳 1基
93	千 寧 遺 跡	彦根市千尋町	平 地	古墳時代	円墳 1基
94	宝 山 寺 遺 跡	彦根市海瀬町	平 地	行基創建伝承	
95	川 越 城 遺 跡	彦根市三津町	平 地	中世	川越城伝承
96	下 石 寺 遺 跡	彦根市石寺町	平 地	古墳～平安	散布地
97	曾 根 沼 遺 跡	彦根市石寺町	平地・内湖	平安時代	霸流庄と言われる
98	荒 神 山 古 墳 群	彦根市日夏町・清崎町・稻里町	山 腹	古墳時代	後期群集墳 25基
99	日 夏 城 遺 跡	彦根市日夏町	山 頂	中世	日夏氏城館跡と言われる
100	古 屋 敷 遺 跡	彦根市日夏町	平 地	中世	集落跡
101	南 谷 遺 跡	彦根市日夏町	平 地	古墳～平安	散布地
102	山 崎 山 城 遺 跡	彦根市稻里町	山 頂	中世	山崎山城跡と言われる
103	国 昌 寺 遺 跡	彦根市稻里町	山 頂		国昌寺跡と言われる
104	屋 中 寺 废 寺	彦根市上岡部町	平 地	古墳～平安	寺院跡、集落跡
105	下 岡 部 西 遺 跡	彦根市下岡部町	平 地	古墳～中世	散布地
106	平 流 城 遺 跡	彦根市稻里町	平 地	中世	城館跡
107	後 池 遺 跡	彦根市柳川町	平 地	古墳～平安	散布地
108	大 正 遺 跡	彦根市柳川町	平 地	古墳～平安	散布地
109	藤 木 遺 跡	彦根市普光寺町	平 地	古墳～平安	散布地

110	普光寺北遺跡	彦根市普光寺町・柳川町	平地	古墳～平安	散布地
111	新海遺跡	彦根市新海町	平地	集落跡という	
112	今宮遺跡	彦根市新海町	平地	古墳～平安	散布地
113	南三ツ谷西遺跡	彦根市南三ツ谷町	平地	古墳～平安	散布地
114	南三ツ谷北遺跡	彦根市南三ツ谷町	平地	古墳～平安	散布地
115	十ヶ坪遺跡	彦根市三ツ谷町・田附町	平地	古墳～平安	散布地
116	普光寺廃寺	彦根市普光寺町	平地	奈良時代	寺院跡
117	国領遺跡	彦根市田附町	平地	古墳～平安	散布地
118	三ノ坪遺跡	彦根市南三ツ谷町	平地	古墳～平安	散布地
119	本庄北遺跡	彦根市本庄町	平地	古墳時代	散布地
120	芝原遺跡	彦根市本庄町	平地	古墳～平安	散布地
121	田原遺跡	彦根市田原町	平地	古墳時代	散布地
122	安田遺跡	彦根市本庄町	平地	古墳時代	散布地
123	本庄東遺跡	彦根市本庄町	平地	古墳時代	散布地
124	出路遺跡	彦根市出路町	平地	古墳～平安	散布地
125	金田遺跡	彦根市金田町	平地	弥生～平安	散布地
126	十輪寺遺跡	彦根市下稻葉町	平地	古墳～平安時代	仏像出土という寺院跡か
127	下稻葉遺跡	彦根市下稻葉町	平地	古墳～平安時代	散布地
128	地福寺遺跡	彦根市下稻葉町	平地	石仏、石塔出土という。寺院跡か。	
129	稻枝西遺跡	彦根市稻枝町	平地	古墳～平安時代	散布地
130	稻枝遺跡	彦根市稻枝町	平地	古墳時代	散布地
131	稻部遺跡	彦根市稻部町	平地	弥生～古墳時代	散布地

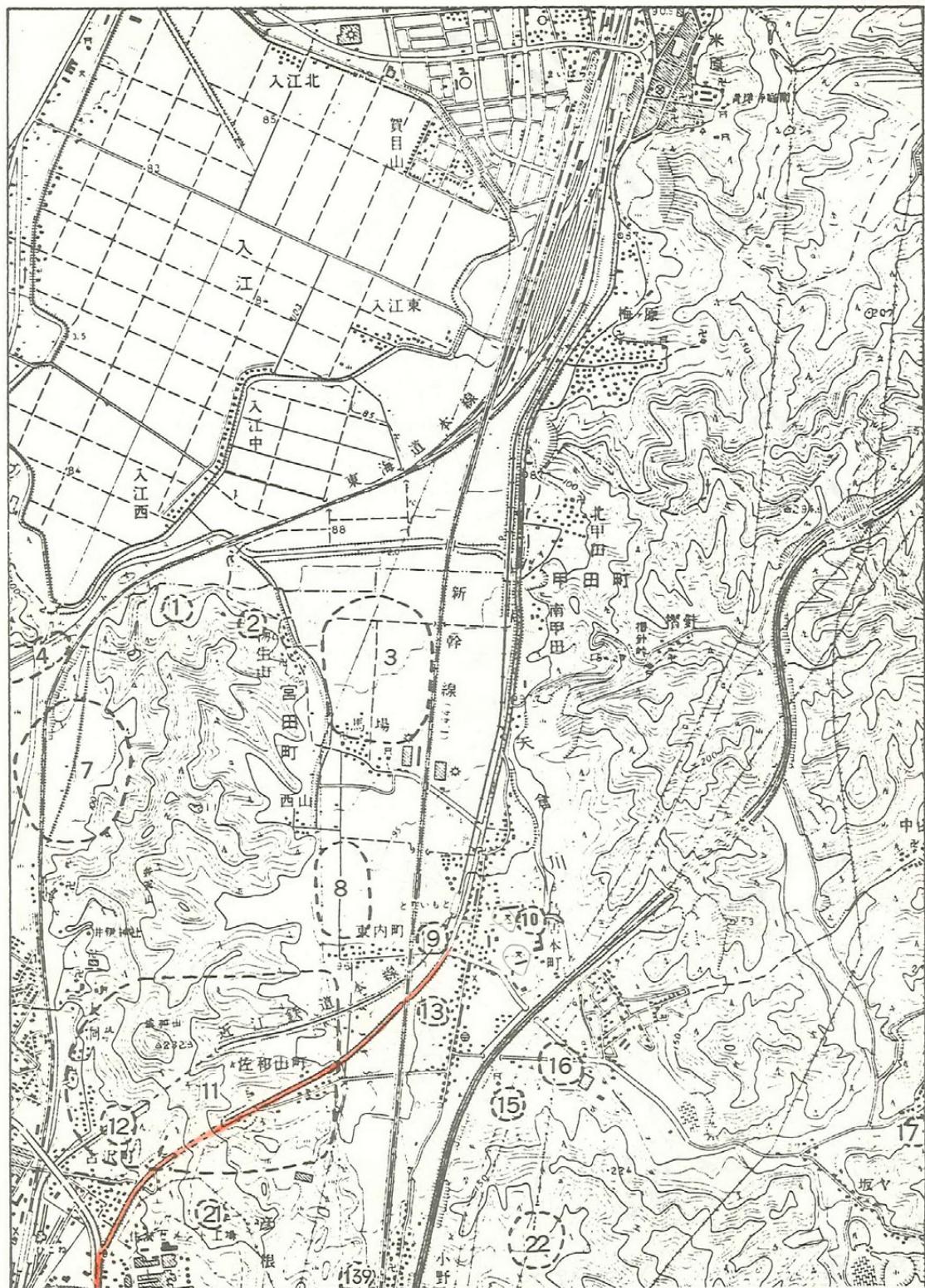
132	沢 田 遺 跡	彦根市稻部町	平 地	弥生～平安時代	散布地
133	肥 田 西 遺 跡	彦根市肥田町	平 地	弥生～中世	散布地
134	肥 田 城 遺 跡	彦根市肥田町	平 地	中世	古鏡出土という。城館跡か。
135	鶴 田 遺 跡	彦根市肥田町	平 地	古墳～平安時代	散布地
136	肥 田 南 遺 跡	彦根市肥田町	平 地	古墳～中世	散布地
137	野 良 田 南 遺 跡	彦根市野良田町	平 地	古墳～中世	散布地
138	多 景 島 遺 跡	彦根市八坂町	湖 底	弥生～江戸	散布地
139	観 音 寺 遺 跡	彦根市小野町	山 麓		堂谷等の小字をのこす。寺院跡か。
140	堀 南 遺 跡	彦根市堀町	平 地	弥生～奈良	集落跡
141	法 師 南 遺 跡	彦根市葛籠町	平 地	古墳～中世	散布地
142	南 川 瀬 南 遺 跡	彦根市川瀬馬場町	平 地	古墳～中世	散布地
143	葛 篠 南 遺 跡	彦根市葛籠町	平 地	古墳～中世	散布地
144	円 常 寺 遺 跡	彦根市城町二丁目	平 地	江戸	武家屋敷



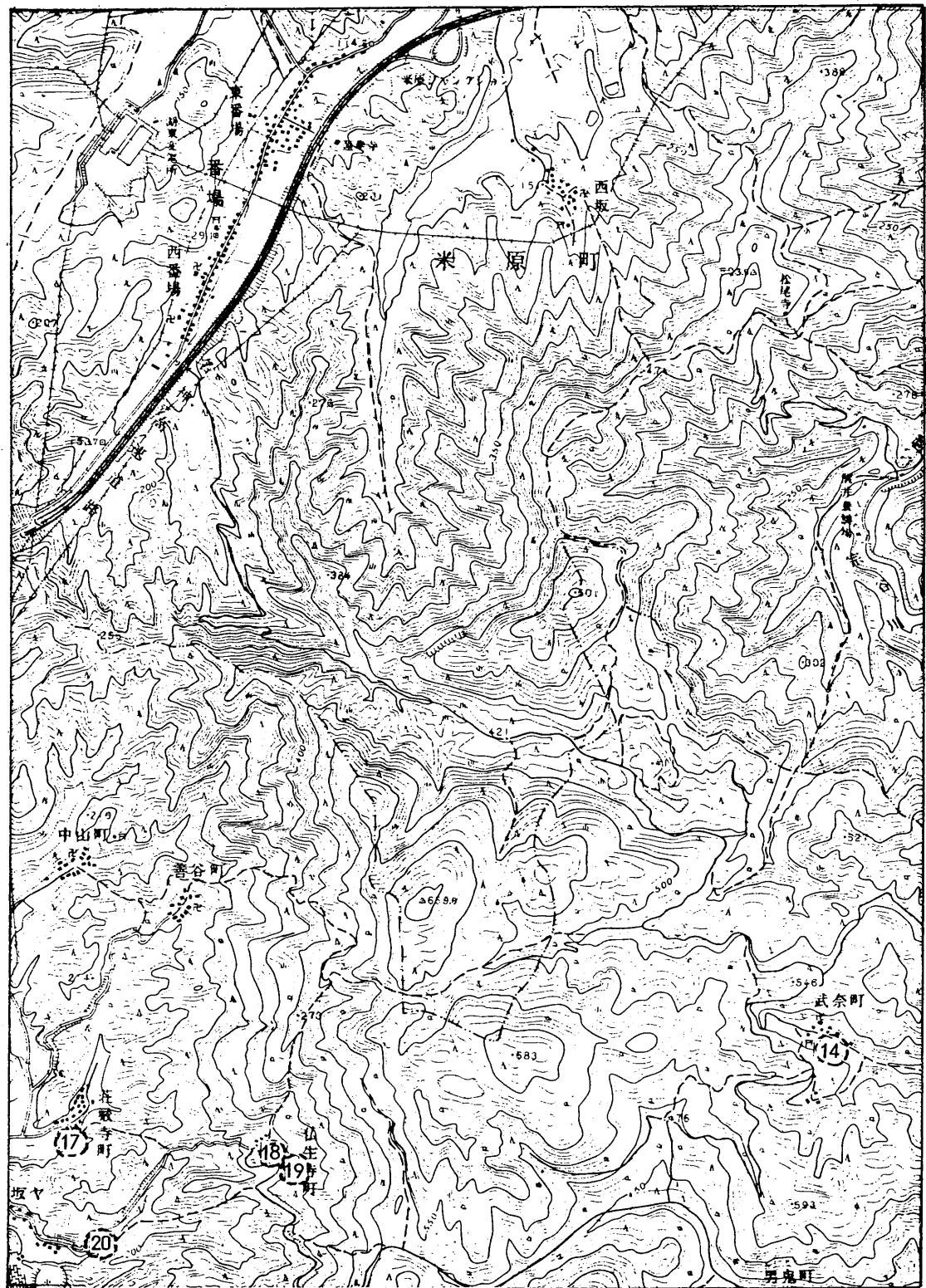
彦根市内遺跡分布調査地図割図



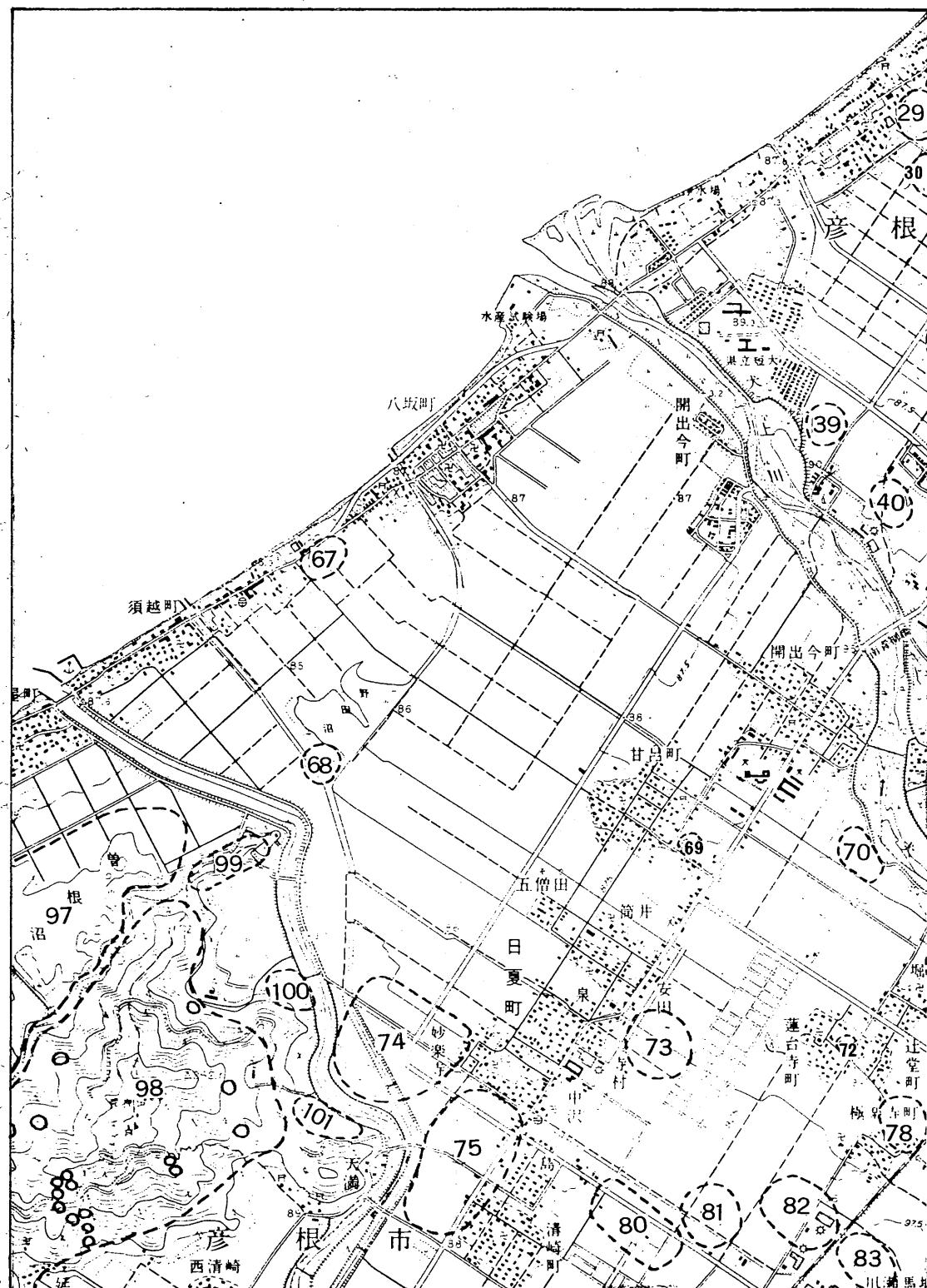
遺跡分布図－1



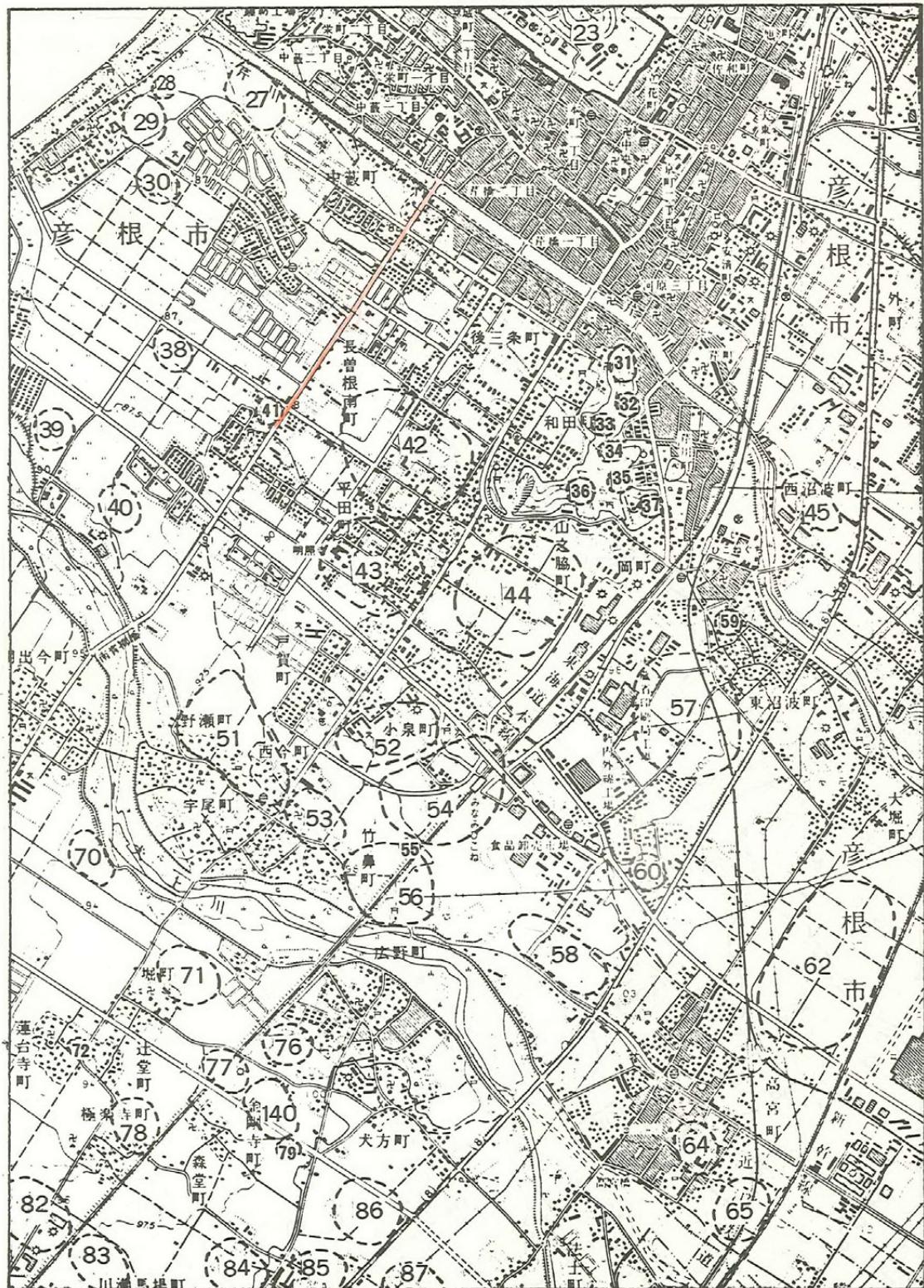
遺跡分布図-2



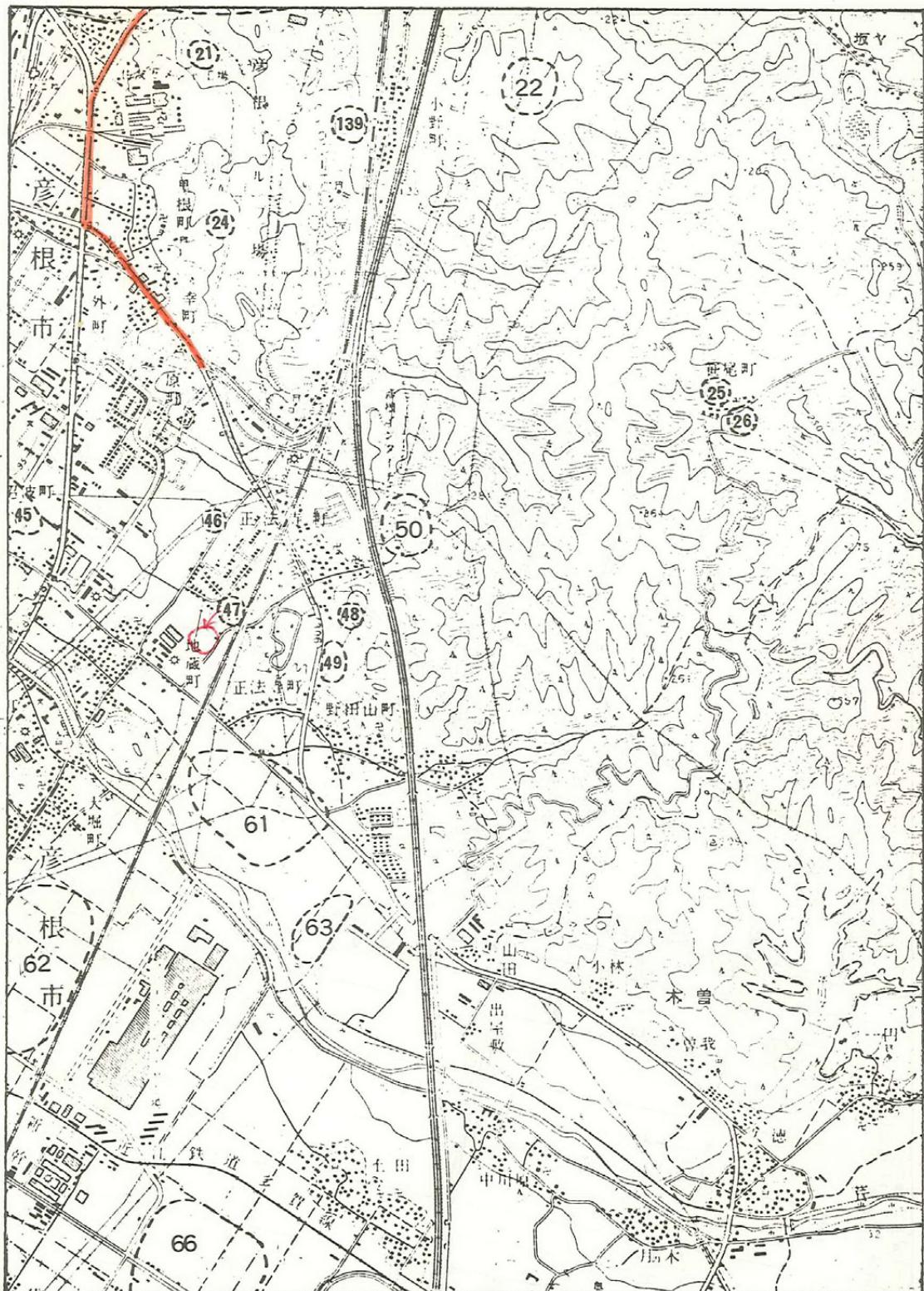
遺跡分布図-3

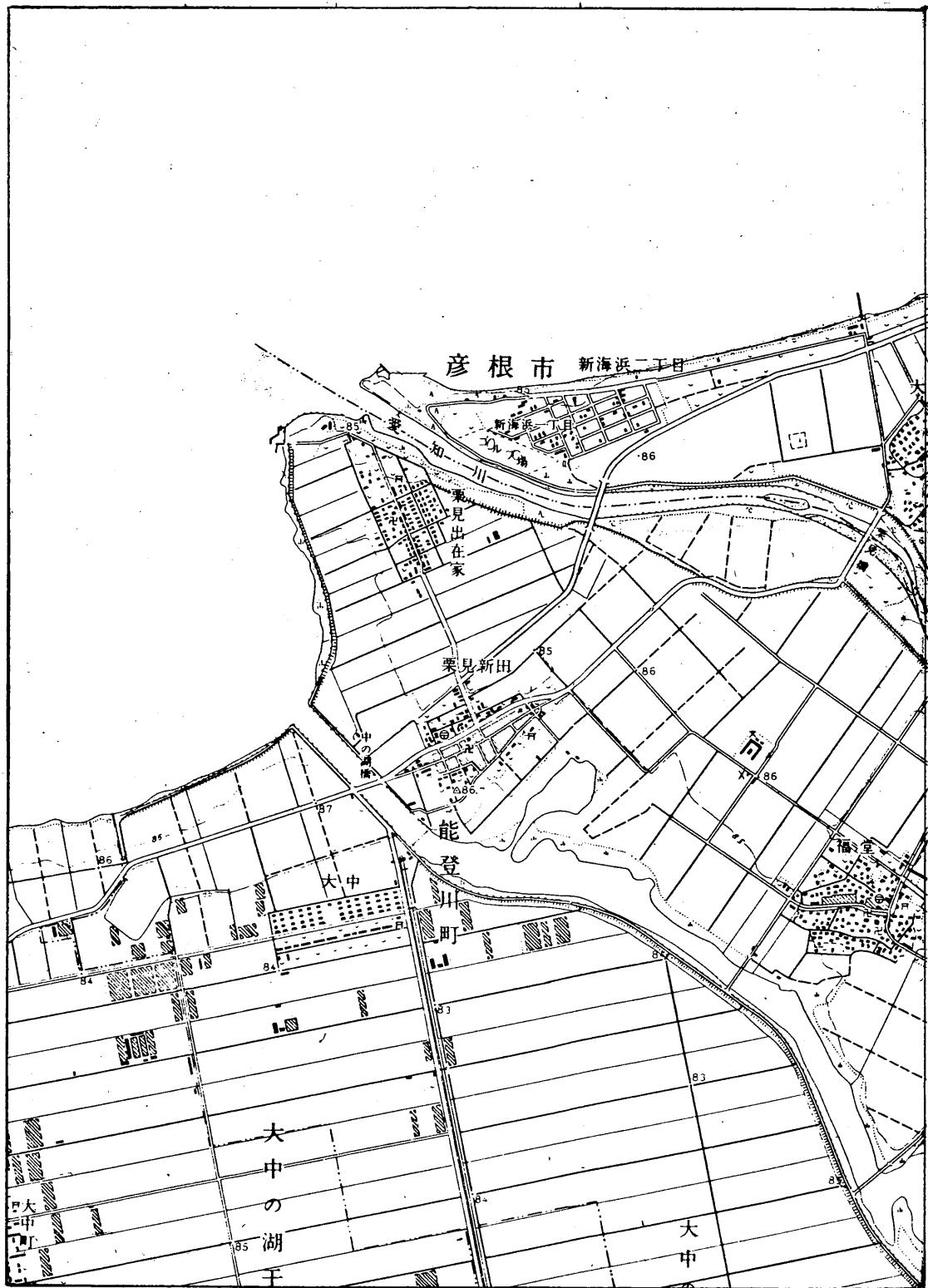


遺跡分布図一4

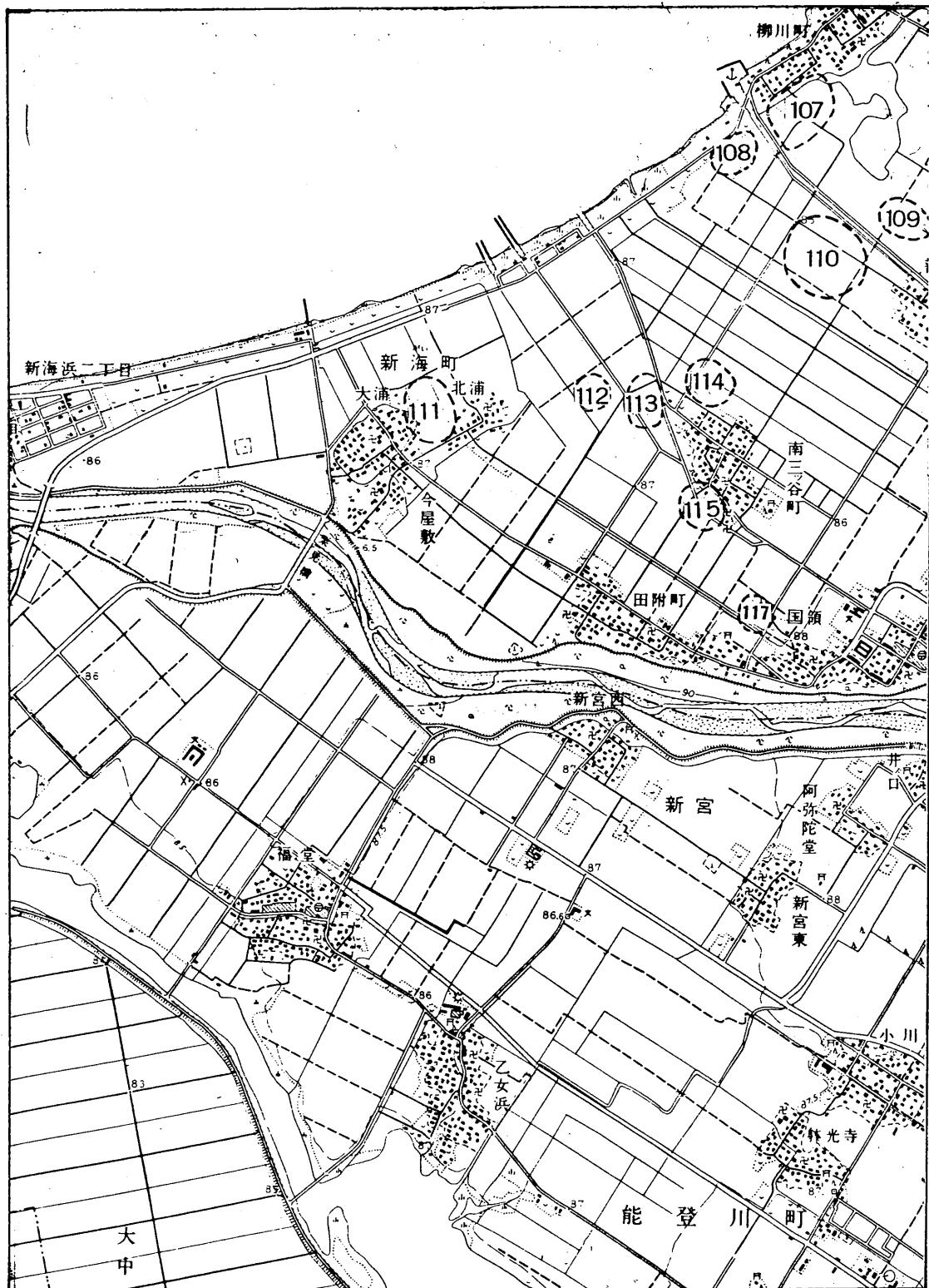


遺跡分布図-5

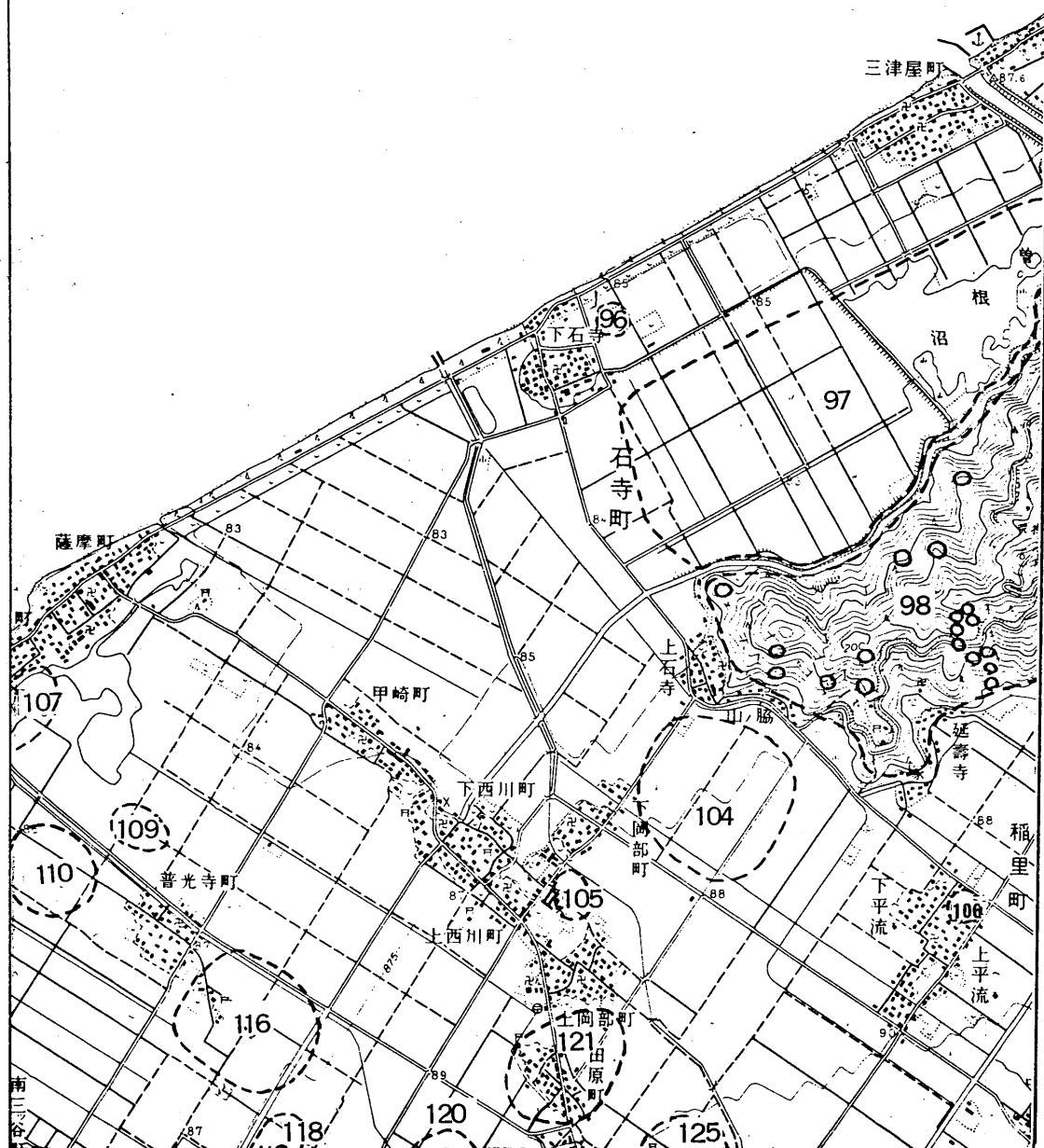




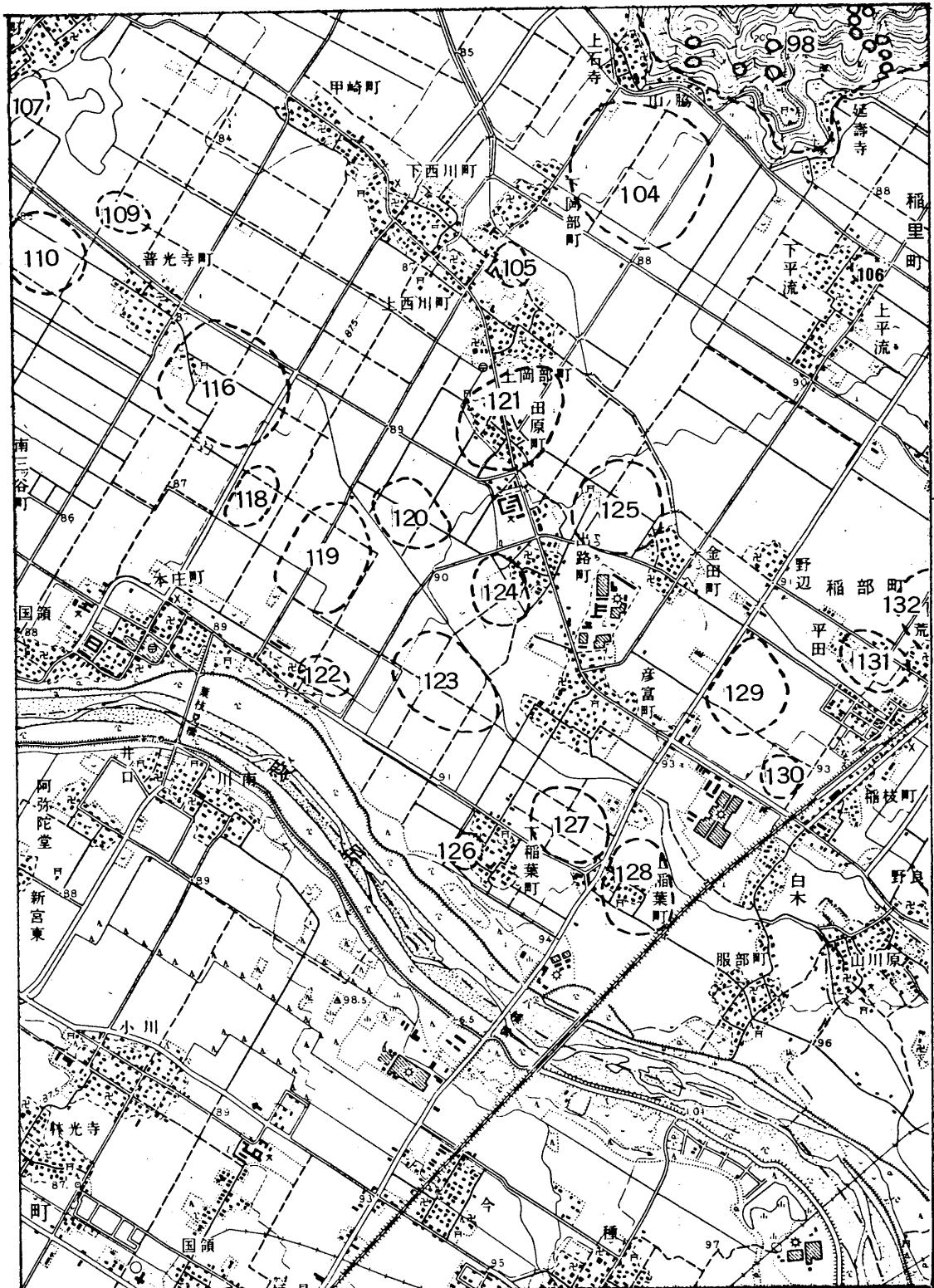
遺跡分布図-7



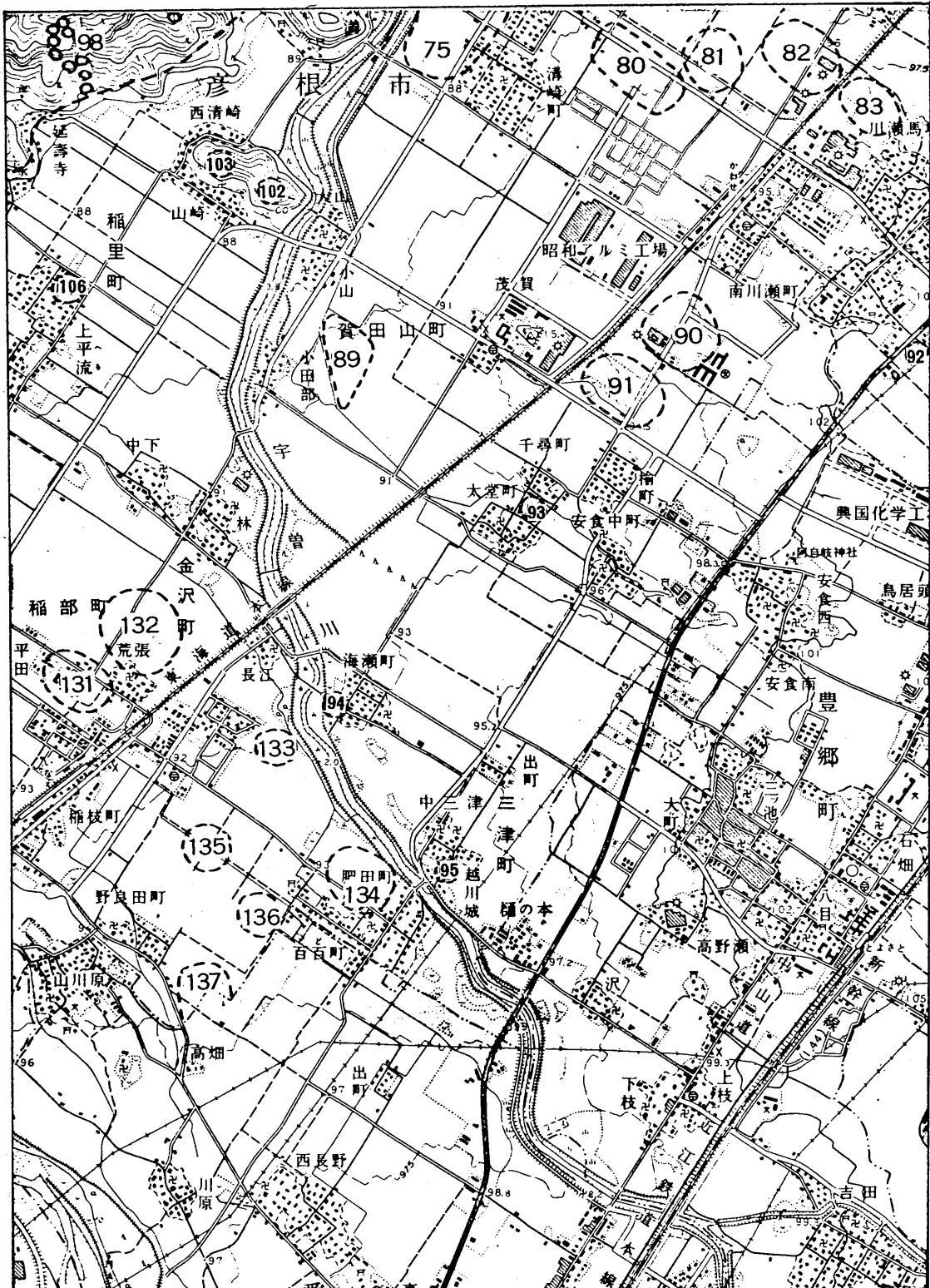
遺跡分布図-8

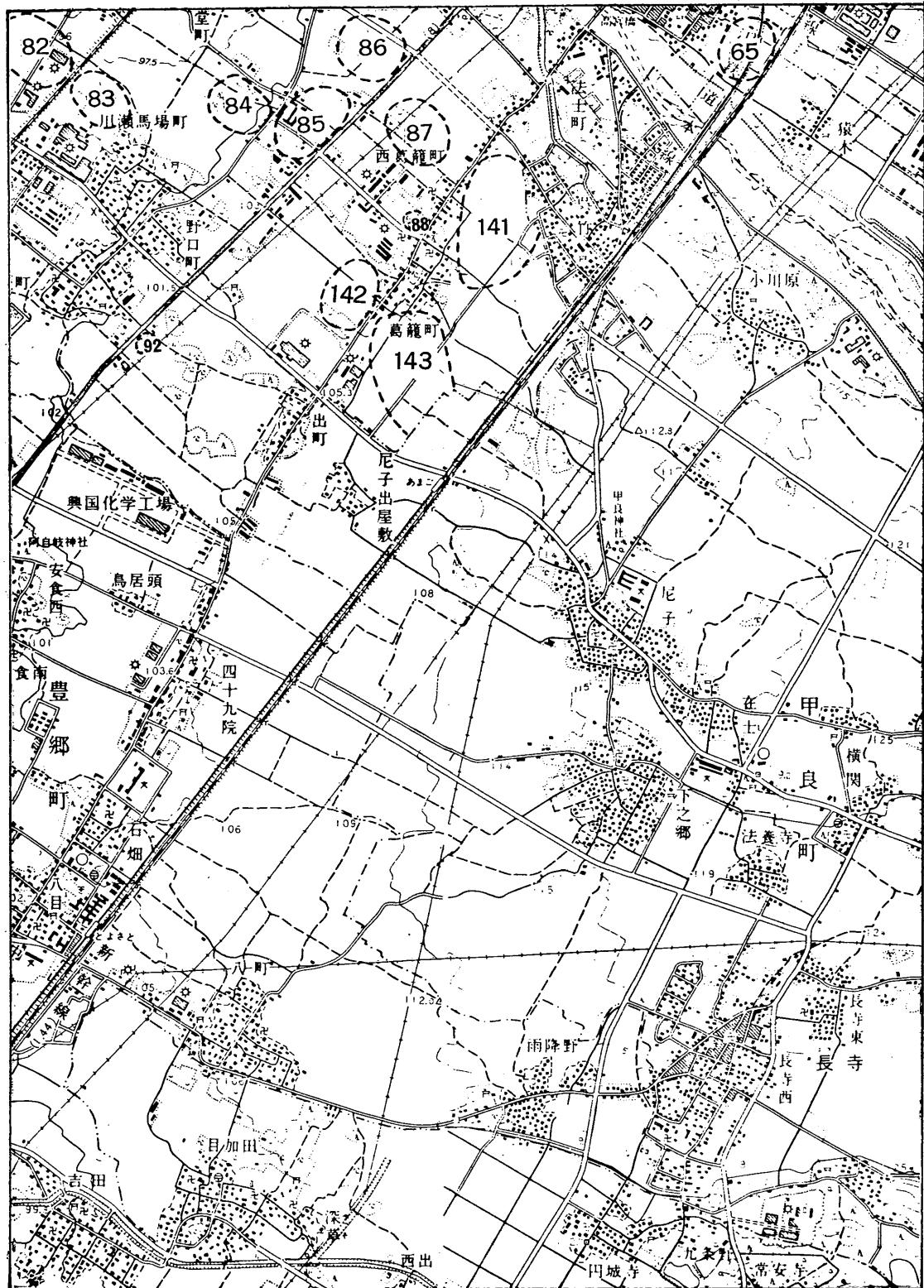


遺跡分布図-9

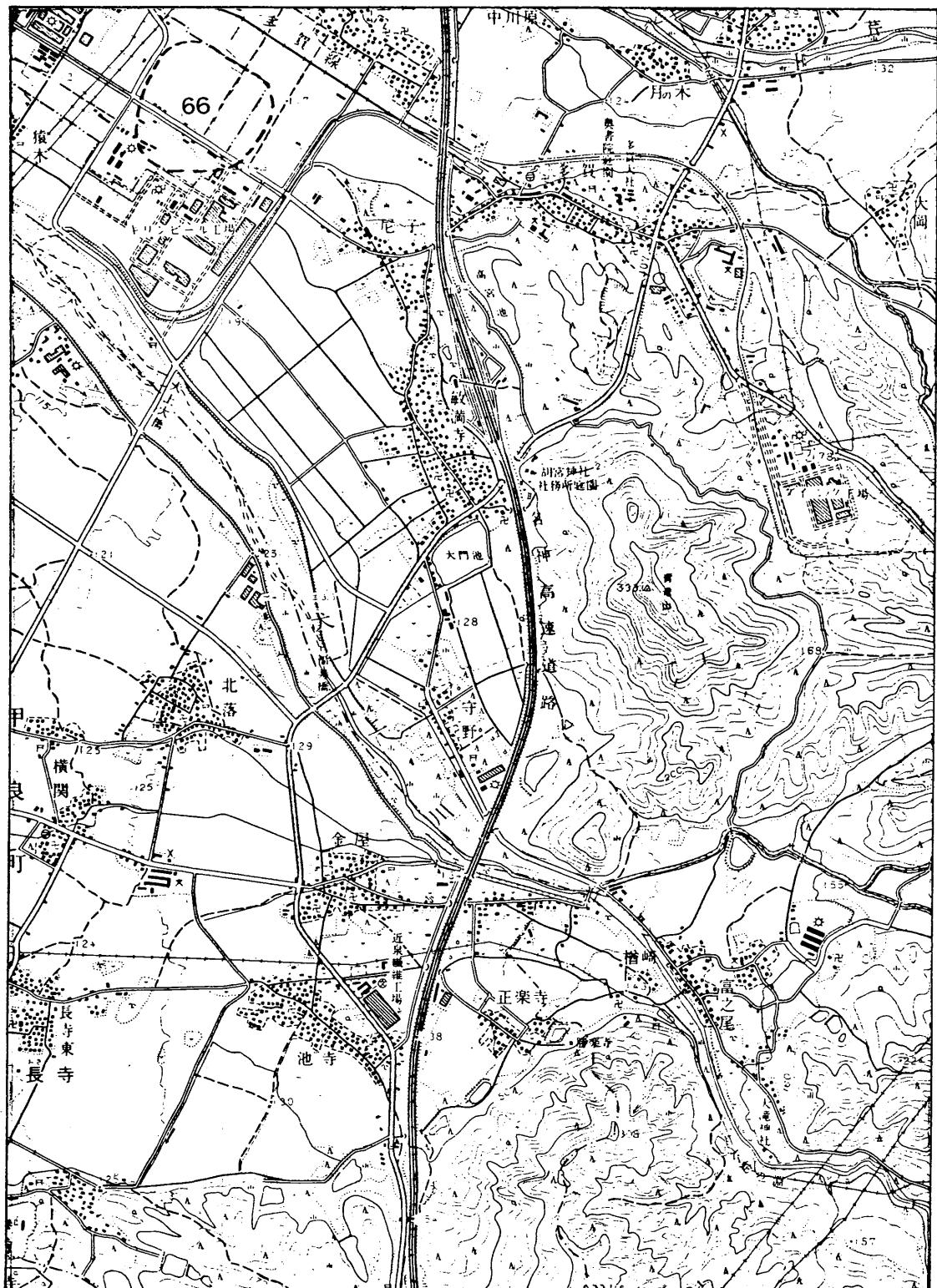


遺跡分布図-10





遺跡分布図-12



遺跡分布図-13

多景島



138

須越町

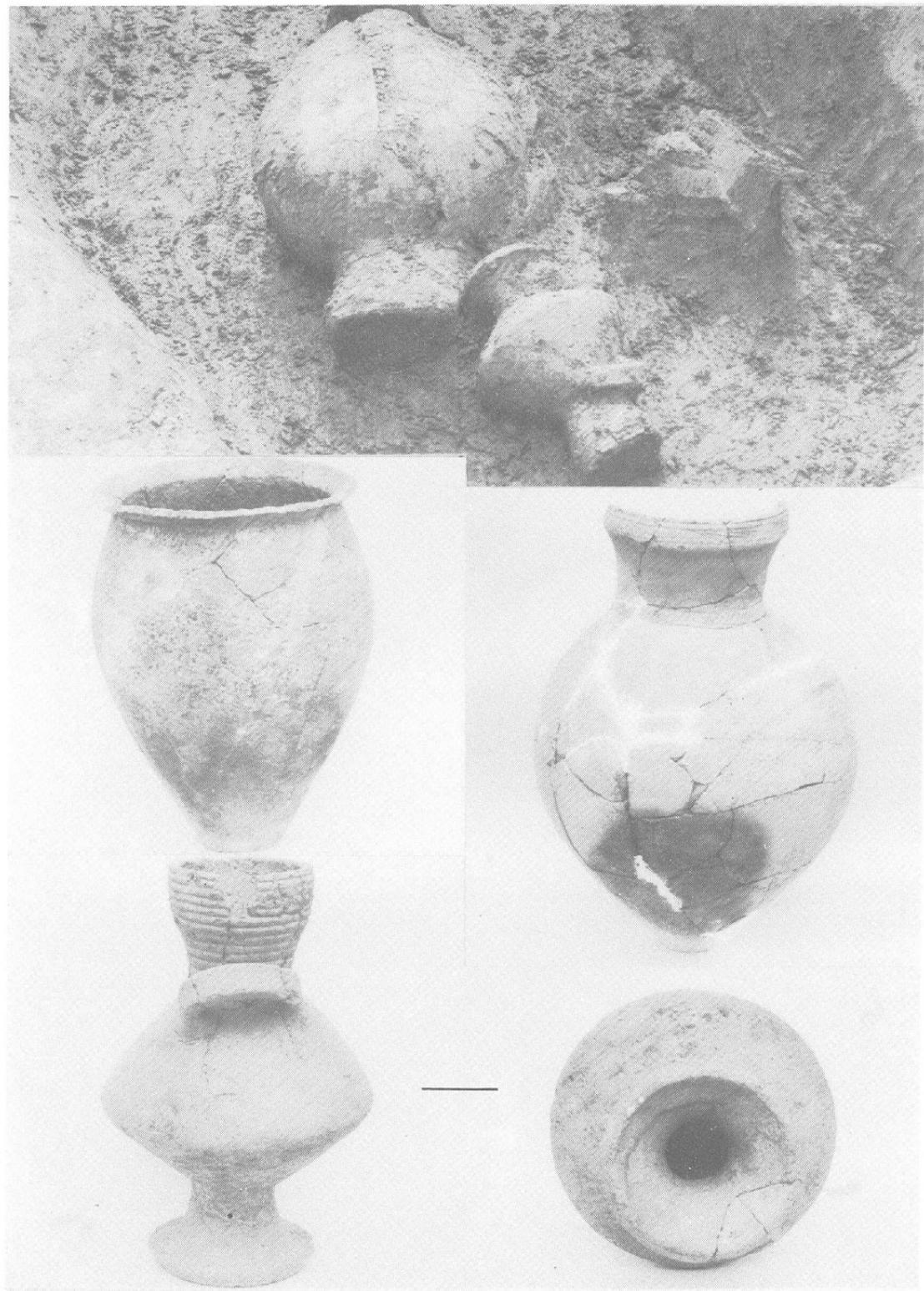
遺跡分布図-14



写真図版一 1 福満遺跡第3次発掘調査出土土器



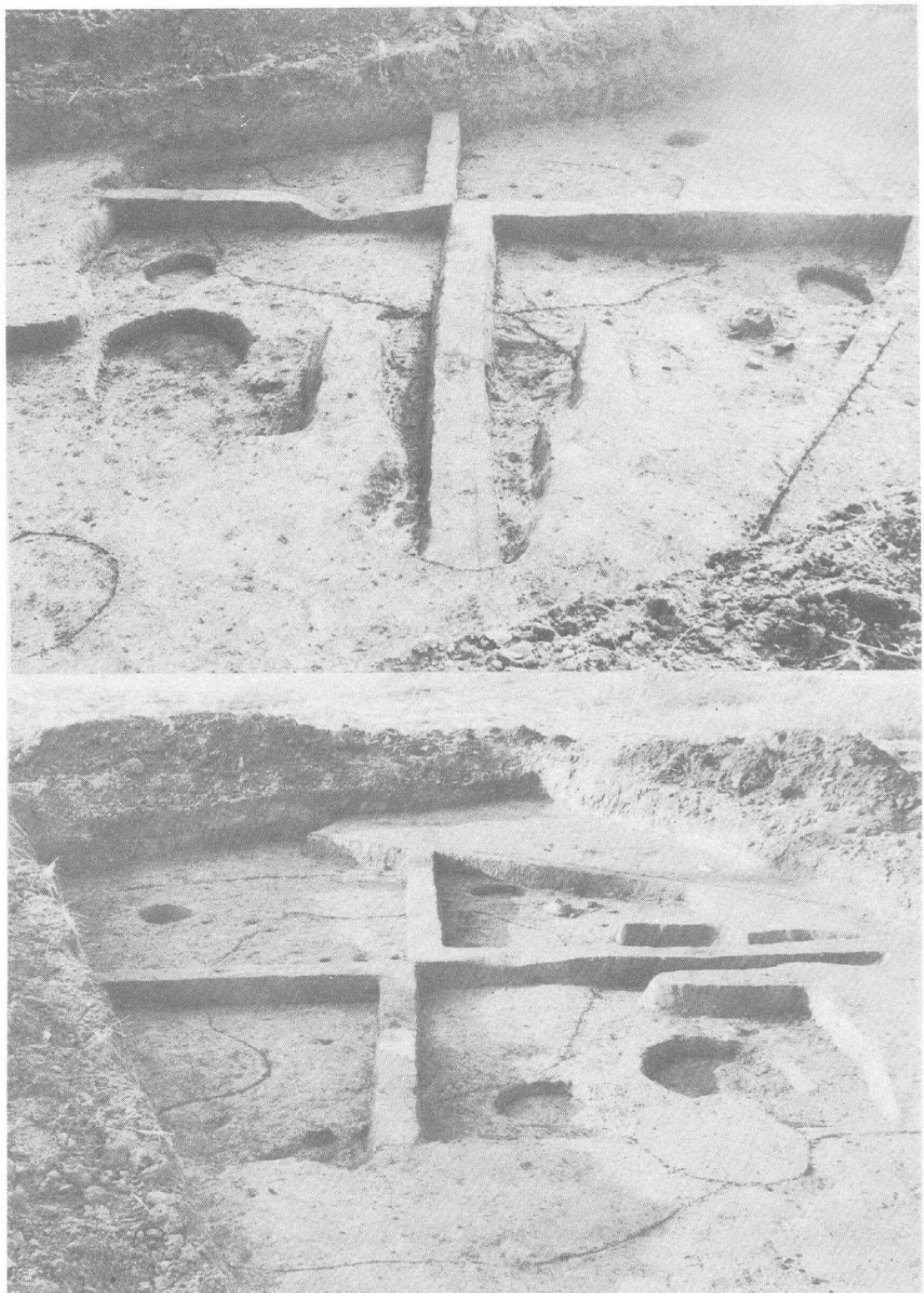
写真図版－2 福満遺跡第2次調査出土土器



写真図版一3 肥田西遺跡出土土器



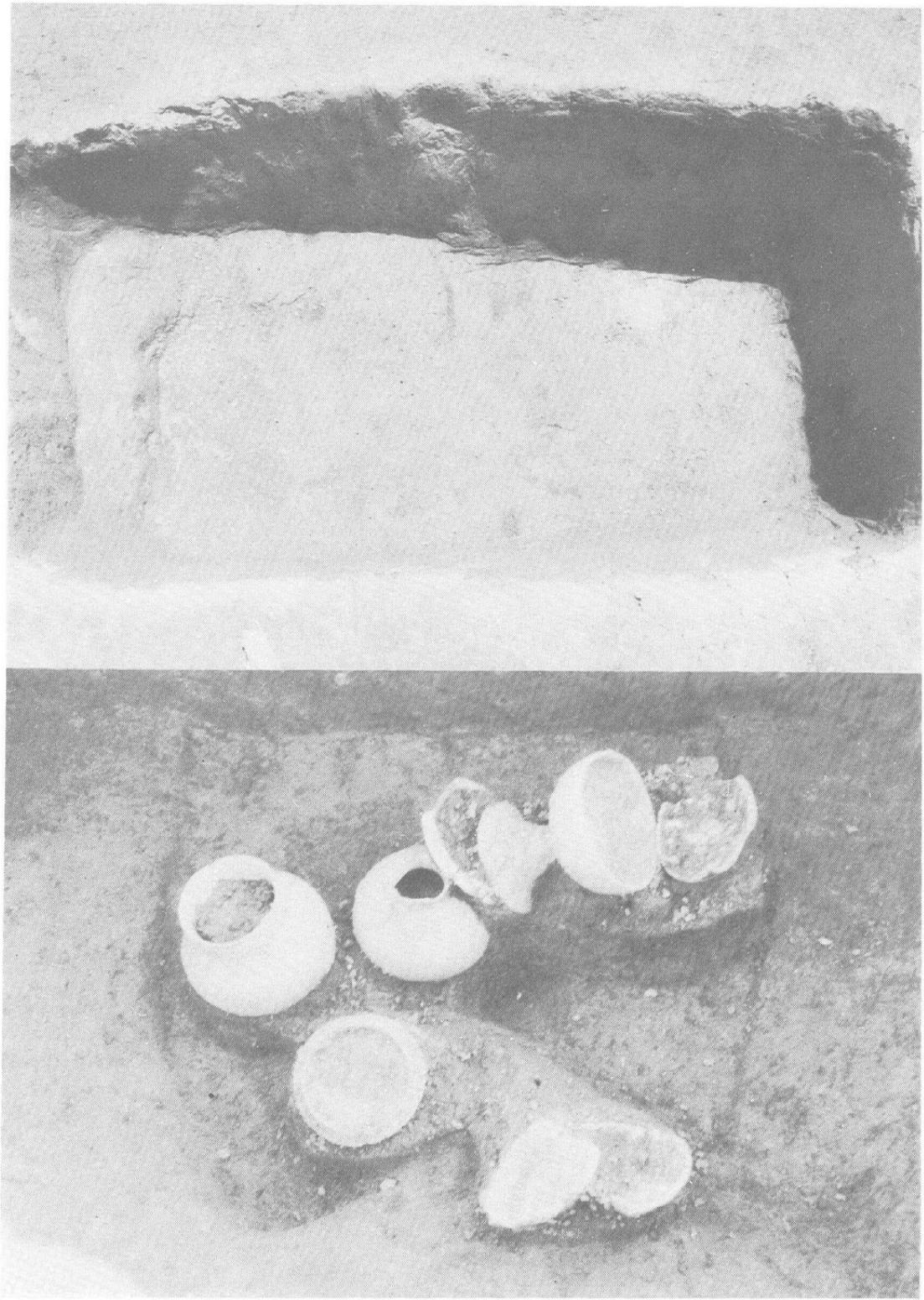
写真図版一 4 堀南遺跡方形周溝墓



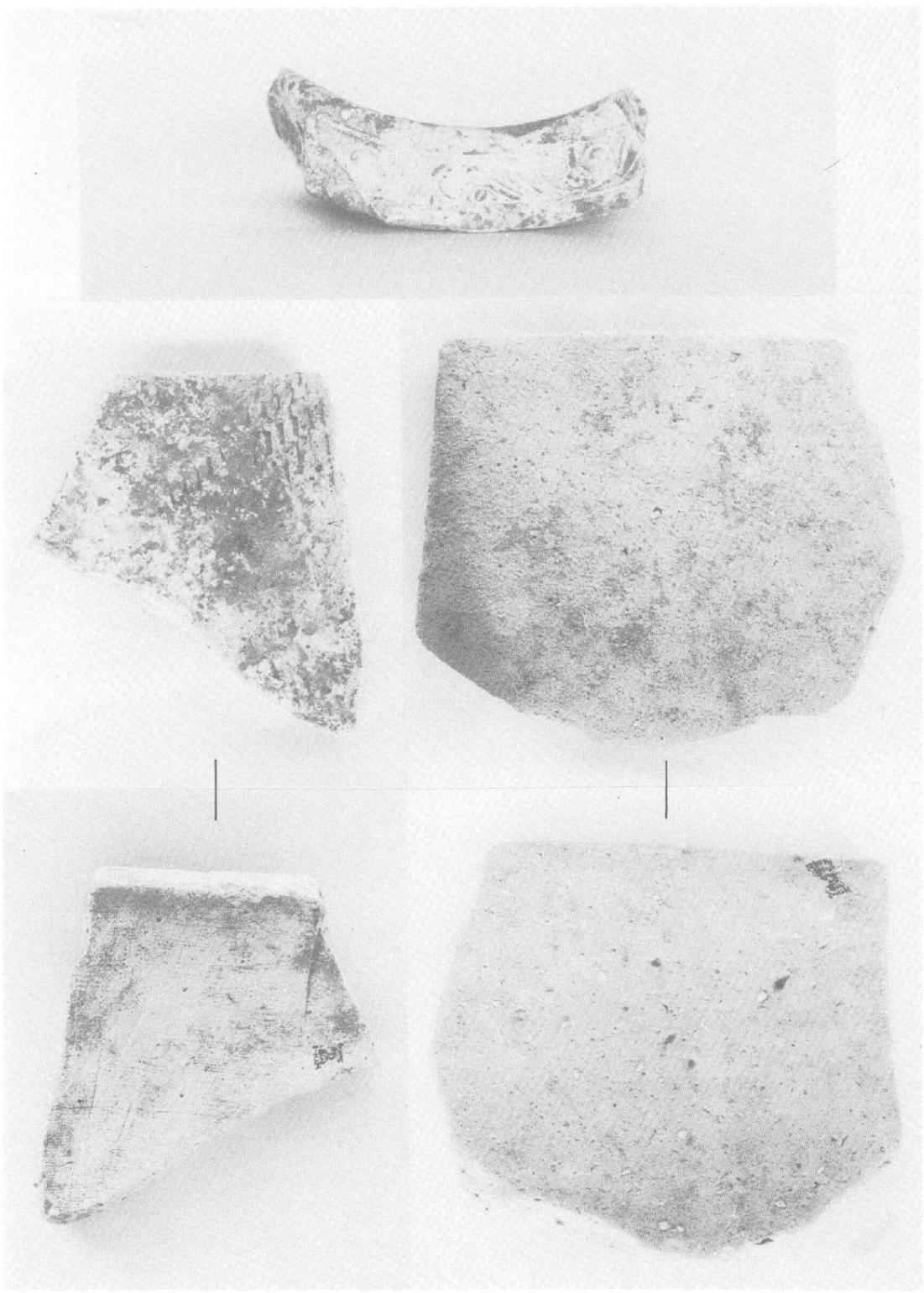
写真図版－5 堀南遺跡竪穴式住居跡



写真図版－6 葛籠北遺跡1号墳



写真図版－7 葛籠北遺跡1号土拵墓



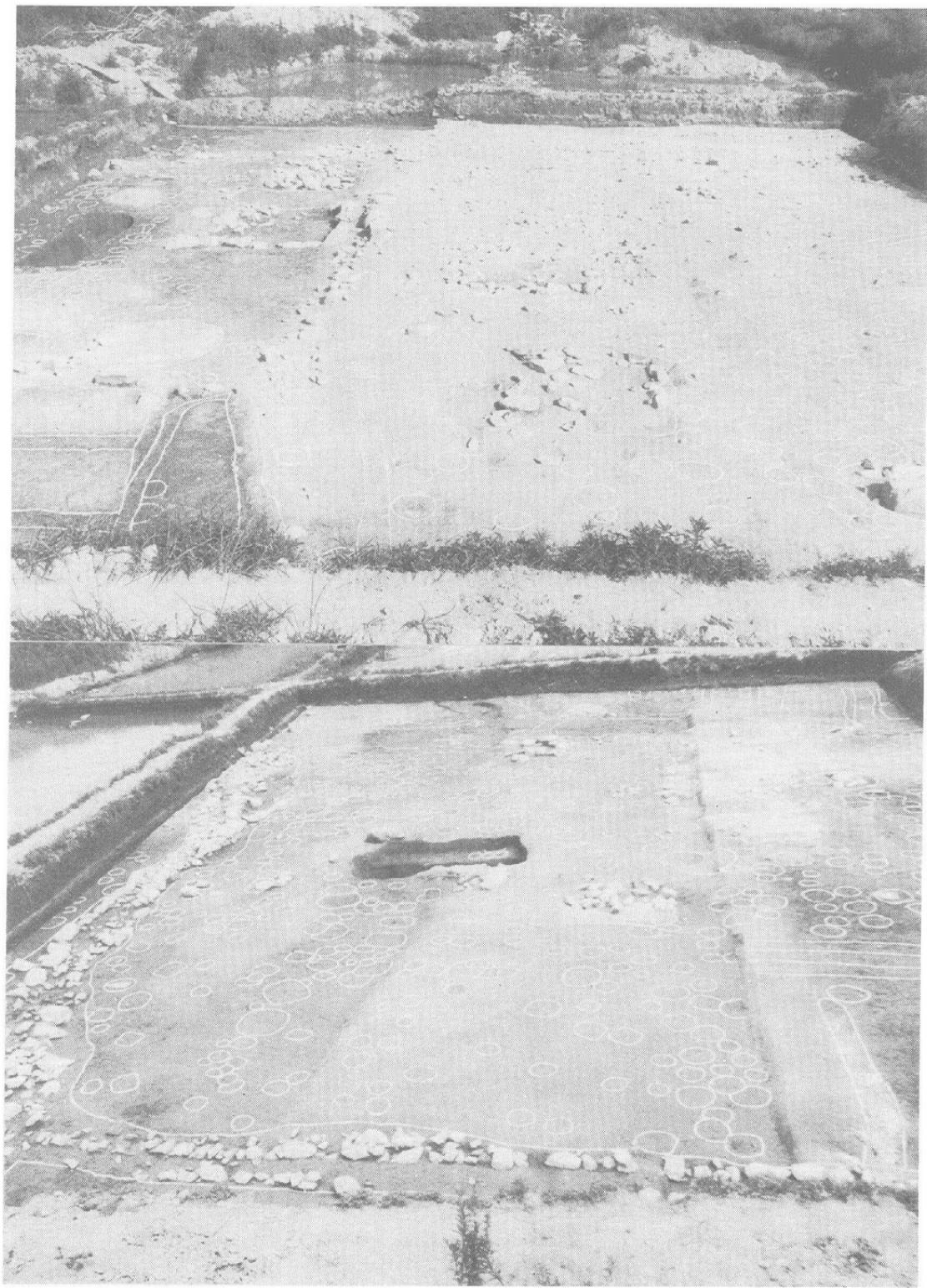
写真図版一8 竹ヶ鼻廃寺出土瓦



写真図版一九 葛籠北遺跡掘立柱建物跡



写真図版一 10 高宮城跡堀跡



写真図版一 11 古屋敷遺跡屋敷割遺構

彦根市埋蔵文化財調査報告第10集  
彦根市内遺跡分布調査報告書

1986

編 集 彦根市教育委員会  
発 行 彦根市教育委員会  
印 刷 (有)つくし出版印刷

